

あらすじ

痴漢囃捜査官
鈴峰杏花は

これまで
いくつもの痴漢を
検挙してきた
凄腕の捜査官だった

彼女は
捜査官としてのスキルや
美貌にくわえて
不感症であるという
痴漢囃捜査官として
最大の利点をもっていた

しかし
とある囃捜査の途中で
怪しい男に遭遇する

その男の不思議な力によって
不感症だったはずの
鈴峰杏花の体は

眠っていた性的な快感を
呼び起こされて…

今まで感じたことのない
快楽の衝撃に戸惑わされ
何度もイカされ

痴漢囃捜査の最中に
挿入されて
何も考えられなくなるほど

頭を真っ白にされながら
中出しされるとい
最悪な失態を犯してしまう

それは
これまで
完璧に任務を遂行してきた
鈴峰杏花にとって
人生最大の屈辱だった

初めてを…

痴漢なんかには…

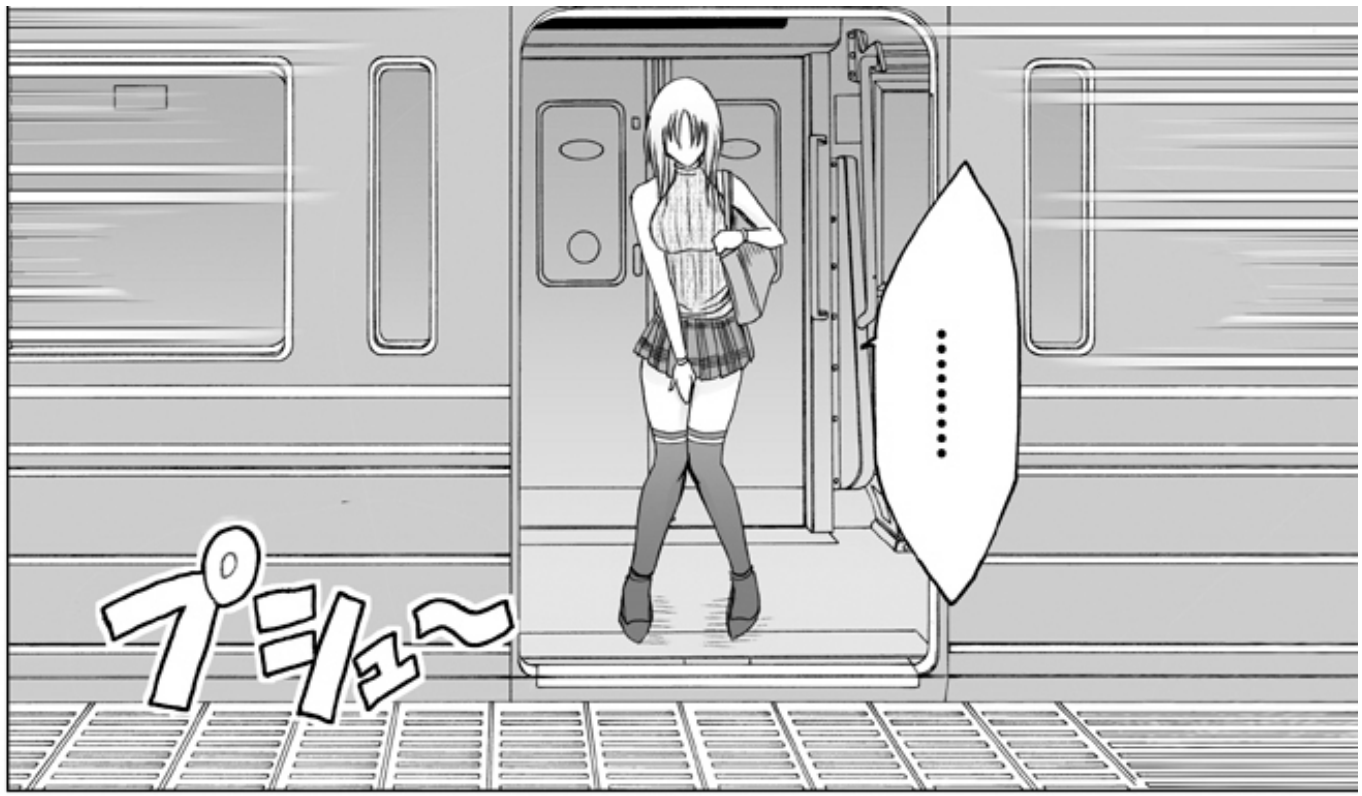


第3話

絶頂を許されない女に
いつまでも続く
寸止め地獄







また……
逃がしてしまっ
た……



はっ……

いない……



あれからと
言うもの……

抜群の検挙率を
誇っていた
私の痴漢囃しは
ミスを発見するようになり

痴漢を捕まえられず
ただ触られるだけで
取り逃がしてしまうことが
多くなってしまう

その原因は

カラダの変化





以前の私は
不感症だった
ため

どれだけ痴漢に
触られても
冷静に
対処することが
できていた



でも
あの男におかしなことを
されてからは

目を追うごとに
カラダは敏感に
なっていき

ズン

ひとたび
痴漢にカラダを触られると
カラダは熱く火照って
力が入らなくなり



何とか痴漢たちを
逮捕しようと
打開策を考えようと
してみても

何をやっているんだ
私……!

いつまで
こんな男たちに
好き放題されているんだ……!

いいわけばかりが
頭の中をめぐるだけで
時間が経つにつれて
快感に支配されて

頭は真っ白になって
何も考えられなくな
って……

それでも――

なすすべも
なく
痴漢されても

どれだけ
感じさせ
られても

それでも私は

イクことだけは
絶対になかった





8月某日
その日は

海水浴帰りの女を
狙って
背後から乳房ばかりを
もてあそび続けるという
痴漢を捕まえるために

路線バスに
乗り込んだ

狙いは的中して
その男を
おびき出すことには


成功した

でも私は
支柱に手を拘束されて
手で抵抗することも
後ろに振り返ることも
出来なくなってしまうって

男は
何も出来ない私の
胸を露出させて

じっくり
ねっとり
弄びはじめて...





オイルでぬるぬるになった
私の胸を揉みまくったり
乳首を弾いたり摘んだり

とにかく胸だけを
しつこくしつこく

私の反応を
確かめながら
なぶり続けて…